

常磐大学・常磐短期大学 地域連携活動事例集



常磐大学地域連携研究支援センター

主な活動内容

地域との連携								
P.3～P.14								
活動	頁	教育・国際化	地域振興	公共	経済・商品開発	健康・医療・福祉	文化・スポーツ	食物・栄養
空き家リノベーション	P.3		●					
茨城県産食材を使用したおせちの商品開発	P.3				●			
茨城県の青少年政策に関する県職員とゼミ生との意見交換会への出席	P.3	●		●		●		
茨城県立水戸南高等学校キャンパスエイド	P.4	●						
いばらきの地魚プロジェクト	P.4				●			●
茨城県北地域魅力発信プロジェクト	P.4		●				●	
梅酒ラベルデザイン	P.5							●
梅染め・組紐プロジェクト	P.5	●	●		●			
エコプロ2023に出展	P.5	●						
「学校インターンシップA～C」水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校における学校支援活動	P.6	●						
学校法人常磐大学×水戸ホーリーホックコラボデーにおける集客イベントの企画・実施	P.6		●				●	
期日前投票所運営支援	P.6			●				
休日議会における大学生と議員との意見交換会への参加	P.6		●	●		●		
県議会特別委員会における学生の調査結果の報告	P.7		●	●		●		
県内連携国立病院機構における臨床研究支援の活動	P.7					●		
米粉消費拡大プロジェクト	P.7				●			●
地元企業への企業ウェブサイト開発	P.8				●			
地元銀行へのヒアリング活動	P.8				●			
商品販売促進イベントの企画・実施	P.8				●			
外国にルーツのある子どもの日本語支援	P.8	●						
地域在住外国人のためのボランティア日本語教室の開催	P.9	●						
「ときわ祭」での看護学部学生とくれよん工房（社会福祉法人）との連携	P.9					●		
「常磐大学×株式会社マルト商事」商品開発プロジェクト	P.9				●			●
常磐大学高等学校における主権者教育授業	P.9	●		●				
常磐大学総合政策学部ビジネスアイデアコンテスト	P.10		●		●			
「鳥羽田ふれあいまつり」の企画・運営	P.10	●					●	
那珂市静峰ふるさと公園八重桜まつり企画提案及び参加	P.10		●					
日本語学校留学生のための日本語支援ボランティア活動	P.10	●						

活動	頁	教育・国際化	地域振興	公共	経済・商品開発	健康・医療・福祉	文化・スポーツ	食物・栄養
ひたちなかプロジェクションマッピング2023inひたちなか開運鐵道神社	P.11		●				●	
病院－大学連携事業「TOKI ² プレナース1日体験」の企画・運営	P.11	●				●		
防災レクリエーション「防災ジャンボかるた」の開発・実施	P.11	●						
水戸市学生食育サポーター	P.11	●						●
水戸市若者調査への参画	P.12		●					
水戸市総合教育研究所「つながる学び ひと☆Future College」の一環としての学校支援活動	P.12	●						
水戸市日本語プレ初級クラスサポーター活動	P.12	●						
水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発プロジェクト	P.12			●	●			●
みなへそ文化祭	P.13	●	●					
「みんなで考えよう！少子化のこと・・・シンポジウム」の開催	P.13	●	●	●		●		
八千代町特産野菜・果物の知名度向上のための取組	P.13		●					●
地域包括ケア演習	P.14					●		
PTA本部による「障害への理解推進活動」への協力	P.14					●		
水戸市安心・安全見守り隊	P.14					●		
第7回錦江町「未来」想像・創造コンテストへの参加・受賞	P.14	●	●	●				

地域への還元

P.15

地域との連携

本学の学内資源（知的資源、人的資源、物的資源など）を開放し、地域社会の発展や課題解決に寄与するため、自治体・企業・団体等と連携して多岐にわたる活動を行っています。

過年度の活動につきましては、本学ホームページからご覧いただけます ▶



〈2023年度活動事例〉

※教員の所属・職名は2024年度現在を記載しています。
（但し、氏名⁽¹⁾は2023年度現在を記載しています。）

空き家リノベーション

活動時期	2023年度
活動場所・地域	ひたちなか市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 准教授 小佐原孝幸、学生サークル「M4」
協力団体	特定非営利活動法人MMMみなとメディアミュージアム
概要	ひたちなか市空家等対策推進室からの依頼で行った、那珂湊駅前にある空き家のリノベーション。 実施日：2023年5月6日（土） 場所：みなへそ（茨城県ひたちなか市釈迦町7-15）
成果	残置物の処分、外壁の塗り替えなどを行い、空き家はコミュニティスペース「みなへそ」と生まれ変わった。



茨城県産食材を使用したおせちの商品開発

活動時期	2023年度～
学内参加主体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、健康栄養学科学生
協力団体	株式会社カスミ
概要	茨城県産の食材を使用して、若い人に「おせち」をもっと馴染みあるものにしたいという目標のため、健康栄養学科の学生がおせち料理の開発を行った。
成果	おせち料理のメインを茨城県産の食材で作成し、かつ、若い人も美味しく食べてもらえるように、レシピをアレンジして作成した。2025年お正月での販売を目指して、現在は準備中。

茨城県の青少年政策に関する県職員とゼミ生との意見交換会への出席

活動時期	2022～2023年度
活動場所・地域	常磐大学見和キャンパス
学内参加主体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、吉田ゼミナール2年生・3年生27名
協力団体	茨城県福祉部子ども政策局青少年家庭課
概要	「子どもの貧困」「一人親世帯」「インターネットの利用環境」「青少年政策のあり方」の4つのテーマに分かれて意見交換が行われた。 意見交換会は2年連続で行われた。
成果	学生の発言・意見内容が県の新たな青少年政策立案に対するヒントとなり、引き続き県の政策運営に興味関心を持つことにつながった。



茨城県立水戸南高等学校キャンパスエイド

活 動 時 期	2015年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	茨城県立水戸南高等学校
学 内 参 加 主 体	人間科学部心理学科 准教授 島田茂樹、心理学科学生9名
協 力 団 体	茨城県教育委員会、茨城県立水戸南高等学校(順不同)
概 要	フレックススクールの生徒の居場所作りの一環として大学生がキャンパスエイドとして生徒の話を聴いたり、生徒の支援にあたっている。
成 果	フレックススクールのキャンパスエイド室において、生徒より年長のお兄さん、お姉さんの役割で話を聴くことによって、学校の中に生徒の居場所を作ることができた。

いばらきの地魚プロジェクト

活 動 時 期	2020年度～
学 内 参 加 主 体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、飯村ゼミナール学生 総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生、村中ゼミナール学生
協 力 団 体	・茨城県農林水産部漁政課 ・茨城沿海地区漁業協同組合連合会(いばらきの地魚認証委員会事務局) ・茨城水産株式会社 ・常洋水産株式会社 ・株式会社文化メディアワークス ・株式会社ヨークベニマル (順不同)
概 要	「若者の魚離れ問題」の解決のために、「どうしたら自分たちと同世代が魚に興味を持ち、食べようと思ってくれるか」の観点から茨城の地魚を使用した商品開発活動を行った。加えて、オンラインアンケート調査の実施や地魚PRのための動画の作成を行った。
成 果	2020～2021年度には、RPGゲーム風とクッキングバトルの2本の動画を作成し、HPやスーパー店頭で公開した。また、SNSによる地魚の情報発信、オンラインアンケート調査の結果を受けて3本の動画を作成し、HPで公開した。 2021年6月に「IBARAKI SABA CURRY」「IBARAKI SABA TOMATO」の商品販売を開始し、現在も店舗で販売されている。 「いばらきデザインセレクション2021」(2021年12月 主催:茨城県):【選定】(ソーシャルデザイン部門)受賞。 2021年度 常磐大学学長賞受賞。



茨城県北地域魅力発信プロジェクト

活 動 時 期	2022年度～
学 内 参 加 主 体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、村中ゼミナール学生
協 力 団 体	茨城県政策企画部県北振興局
概 要	県北地域の魅力発信強化を目指し、SNS(Instagram、TikTok)による県北地域の情報発信とオンラインアンケート調査を実施してきている。
成 果	2022年度はInstagramにより県北地域動画(県北高校フシギ部の事件ノート)に関する情報発信を行い、今後の県北地域のPR方法を提案した。2023年度はTikTokを使用し、「エモい」をコンセプトにした県北地域PR動画(18本)を作成した。

梅酒ラベルデザイン

活 動 時 期	2023年度
活 動 場 所 ・ 地 域	水戸市
学 内 参 加 主 体	人間科学部コミュニケーション学科 准教授 小佐原孝幸、小佐原ゼミナール学生
協 力 団 体	明利酒類株式会社
概 要	常盤大学と明利酒類が開発・製造した梅酒「PRINCESS TOKIWA」の商品ラベルをリデザインした。
成 果	ラベルに商品特徴に合わせたイラストを用い、金の箔押しを加えることで、より訴求力の高い商品となった。



梅染め・組紐プロジェクト

活 動 時 期	2022年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	水戸市、フィリピンBago市他
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 准教授 小関一也、小関ゼミナール学生、学生ボランティアサークル「フェアリーテイル」
協 力 団 体	・水戸ユネスコ協会 ・組紐鈴木屋 ・公益財団法人オイスカ Bago Training Center(フィリピン) ・茨城県立水戸工業高等学校 ・市民グループ「木漏れ陽」他 (順不同)
概 要	梅染めと組紐の魅力を伝えるワークショップを国内外で開催した。フィリピン・ネグロス島では、現地の生産者と交流し、水戸の梅染めとフィリピンの自然染めを組紐にしたフェアトレード商品を共同開発した。
成 果	年6回のワークショップを通して、水戸工業高等学校や市民グループの「木漏れ陽」の皆さんなど多くの方と交流することができた。共同開発したフェアトレード商品は、地域の市民イベントに参加し、展示・販売した。



エコプロ2023に出展

活 動 時 期	2023年度
活 動 場 所 ・ 地 域	東京ビッグサイト
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 准教授 榎本真美代、榎本ゼミナール学生7名
協 力 団 体	主催： ・一般社団法人サステナブル経営推進機構 ・株式会社日本経済新聞社
概 要	東京ビッグサイトにおいて、環境展示会「エコプロ 2023」が開催された。会場内には、大学の研究室や教育機関などによる環境技術の研究成果、環境教育、環境活動の実践などを展示・紹介する場が設置されている。
成 果	榎本ゼミナールの3年生は、「持続可能な社会の実現に向けた取り組み」をテーマに、グループに分かれてアクション・リサーチをもとにした論文執筆をしている。エコプロ2023は、その発表の場になっている。



「学校インターンシップA～C」 水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校における学校支援活動

活 動 時 期	2019年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	水戸市内各学校
学 内 参 加 主 体	人間科学部教育学科 特任教授 小島睦、教授 中里南子、准教授 佐藤賢一郎、助教 芦沢柚香、教育学科の1・2年生及び教職課程履修者（2019年度以降参加者合計約300名）
協 力 団 体	水戸市教育委員会
概 要	教育学科開講科目「学校インターンシップA～C」として、水戸市内の公立幼稚園・小学校・中学校（12校程度）を学生が訪問し、学校支援活動を行った。
成 果	各学校での様々な教育活動に参加し、学校支援を行った。子どもたちと関わる中で、学生自身のキャリア形成につながったほか、授業外に学校ボランティア活動を行うための関係性を構築することができた。

学校法人常磐大学×水戸ホーリーホックコラボデーにおける集客イベントの企画・実施

活 動 時 期	2010年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	水戸市
学 内 参 加 主 体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生
協 力 団 体	株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック
概 要	2010年度より常磐大学は、水戸ホーリーホックとの連携協定をもとにした「学校法人常磐大学×水戸ホーリーホックコラボデー」（公式試合）を実施しており、その中で経営学科は集客につながるイベントを提案・実施してきた。2024年度より常磐大学×水戸ホーリーホックコラボイベントを実施。
成 果	2010年度より累計62の集客イベントを実施してきている。



期日前投票所運営支援

活 動 時 期	2016年度～
活 動 場 所 ・ 地 域	常磐大学見和キャンパス
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、砂金ゼミナール学生
協 力 団 体	水戸市選挙管理委員会
概 要	各種選挙において常磐大学構内に設置される期日前投票所において、学生が立会人を務めているほか、投票率向上のための様々な取り組みを実施している。
成 果	オリジナルのチラシの作成とときわんこによる配布、ウエルカムドリンクの提供、簡易託児所の設置など、毎回趣向を凝らして投票率の向上に努めている。



休日議会における大学生と議員との意見交換会への参加

活 動 時 期	2023年度
活 動 場 所 ・ 地 域	茨城県議会
学 内 参 加 主 体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、吉田ゼミナール3年生14名
協 力 団 体	茨城県議会の各常任委員会
概 要	茨城県議会への県民参画の取組として休日に議会の常任委員会を開催し、希望する県民が委員会執行部席に着席して県議との意見交換を行う場にゼミナール学生も参加した。
成 果	少子化問題を議論する保健福祉委員会に出席したゼミナール学生からは学費や奨学金の返還等の負担についての配慮が重要である等の意見を提出し、新聞掲載もされ、議員からも貴重な意見である旨の表明があり、学生・議員お互いにおいて意義深い会合であることが認識された。

県議会特別委員会における学生の調査結果の報告

活 動 時 期	2023年度
活動場所・地域	茨城県議会
学 内 参 加 主 体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、 吉田ゼミナール3年生4名
協 力 団 体	誰もが輝く持続可能な茨城を担う人づくり調査特別委員会(茨城県議会)
概 要	ゼミナール学生が県内学生の結婚観・子育て観に関するアンケート・ヒアリングを実施し、その成果を県議会外部有識者として出席し報告を行った。
成 果	県内大学学生に対するアンケートや未婚者へのヒアリングの分析結果を特別委員会に報告し、議員との意見交換を行ったが、貴重な報告として高い評価をいただき、特別委員会の報告書にも記載されることになった。



県内連携国立病院機構における臨床研究支援の活動

活 動 時 期	2018年度～
活動場所・地域	独立行政法人国立病院機構 ・水戸医療センター ・霞ヶ浦医療センター
学 内 参 加 主 体	看護学部看護学科 《2018～2023年度》 准教授 菅原直美、南雲史代、萩野谷浩美、福田大祐 専任講師 井上顕子、梅井尚美、田村麻里子、山口幸恵、助教 及川けい子、脇田泰章 《2024年度現在》 准教授 角智美、福田大祐(総括)、専任講師 石井歩、梅井尚美、山口幸恵、助教 脇田泰章
協 力 団 体	独立行政法人国立病院機構 ・水戸医療センター ・霞ヶ浦医療センター (順不同)
概 要	本学と各施設の連携協定のもと臨床現場の看護師を対象に研究支援を行っている。年間研修として看護研究の基礎的知識を修得する基礎コースと研究を主体的に実践し成果を発表する実践コースを設けて活動が続いている。
成 果	両コース合わせこれまでに看護師約570名の参加があり、約100課題の臨床研究を支援してきた。研修後のアンケート結果では研修満足度と目標達成度が高く得られ、実践コースでは院外での研究発表にもつながっている。



米粉消費拡大プロジェクト

活 動 時 期	2019年度～
活動場所・地域	水戸市
学 内 参 加 主 体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、 村中ゼミナール学生
協 力 団 体	水戸市穀物改良協会(水戸市産業経済部農政課)
概 要	2019 年度は米粉に関するアンケート調査を実施し、2020 年度はSNSによる米粉の情報を発信し、2021 年度はSNSによる米粉スイーツの情報発信と米粉の認知・イメージに関するオンラインアンケート調査を行い、2022 年度は、水戸産米粉商品PR 資材の提案、SNS によるPR(商品と店舗)、さらに販売促進のためのオンラインアンケート調査を実施し、2023年度はSNSによるPR(商品と店舗)を行った。
成 果	2023年11月1日発行の水戸市の広報誌である「広報みと」に、米粉消費拡大プロジェクトの内容が特集記事として掲載された。

地元企業への企業ウェブサイト開発

活動時期	2023年度
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 文堂弘之、准教授 奥野辰広、経営学科3年生
協力団体	・株式会社アプリシエイト ・水戸市 ・水戸商工会議所 ・Procafe ・釜人鉢の木 (順不同)
概要	ウェブサイトを使用していない協力企業2社(Procafe、釜人鉢の木)に学生がウェブサイトを制作する。
成果	ウェブサイトがない企業に、本格的で効果のあるウェブサイトを提供することができ、学生にICTマーケティングの実践的な連携活動経験を提供することができた。



地元銀行へのヒアリング活動

活動時期	2023年度
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 文堂弘之、文堂ゼミナール3年生
協力団体	・株式会社常陽銀行 ・株式会社筑波銀行 (順不同)
概要	地方銀行におけるNISAおよび環境問題への取り組みを調査する。
成果	日銀グランプリに応募する論文を作成し、優秀賞を受賞した。



商品販売促進イベントの企画・実施

活動時期	2010年度～
活動場所・地域	株式会社水戸京成百貨店
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「ビジネス専門演習b」履修学生
協力団体	株式会社水戸京成百貨店
概要	2010年度より1月上旬2日間にわたって百貨店内での商品販売促進(実際に商品を販売する)イベントを行っている。イベント実施前の3ヵ月間はSNSを利用したPRを行う。
成果	2010年度より累計34の商品販売促進イベントを実施してきている。 2015年度 常磐大学学長奨励賞受賞。



外国にルーツのある子どもの日本語支援

活動時期	2023年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生
協力団体	・水戸市立五軒小学校 ・水戸市立国田義務教育学校 (順不同)
概要	水戸市内の小学校2校で、日本語での生活や学習に困難のある、外国にルーツのある子どもの日本語支援を行っている。主に学生が教室に入り込んで、教員の指示に従い、当該児童が教室活動についていけるようにサポートをしている。
成果	日常的な日本語会話にも困難のある児童に寄り添って、サポートをすることで、当該児童の積極的な授業参加の様子が見られた。また、「にほんご水戸の部屋」との連携で、学校と放課後の両方でのサポート体制を作り、それが実現した児童もいる。

地域在住外国人のためのボランティア日本語教室の開催

活 動 時 期	2022年度～
活 動 場 所・地 域	水戸市
学 内 参 加 主 体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、 コミュニケーション学科学生など約20名
協 力 団 体	公益財団法人水戸市国際交流協会
概 要	水戸市国際交流センターでボランティア日本語教室「にほんご水戸の部屋」を週1回開催している。学生と一般市民とが協力し、小・中・高校生から社会人までの、地域在住外国人への日本語支援を行っている。
成 果	2023年度は外国にルーツを持つ小・中・高校生、大学生・社会人合わせて延べ30名ほどの参加者があった。7月と12月には学生と留学生が中心となって教室のお祭りを開催し、地域住民を合わせて60名ほどの参加を得た。



「ときわ祭」での看護学部学生とくれよん工房(社会福祉法人)との連携

活 動 時 期	2018年度～
活 動 場 所・地 域	水戸市
学 内 参 加 主 体	看護学部看護学科学生(2018年度～2023年度の1、2年生) 看護学部学生支援委員、看護学科 専任講師 猿田和美 ⁽¹⁾
協 力 団 体	社会福祉法人くれよん(くれよん工房)
概 要	2018年度の学部開設時から、「ときわ祭」において、くれよん工房の利用者の方が作られた菓子類や小物類を学生たちが委託販売したり、学生と利用者の方が一緒に販売することを行っている。
成 果	学生がくれよん工房を訪れた際に作業の様子を見学させて頂いたり、「ときわ祭」で学生と利用者が一緒に販売を行う事を通して交流する機会を得たことは、看護学部の学生にとって貴重な経験となっている。

「常磐大学×株式会社マルト商事」商品開発プロジェクト

活 動 時 期	2022年度～
学 内 参 加 主 体	人間科学部健康栄養学科 准教授 飯村裕子、 飯村ゼミナール学生13名
協 力 団 体	株式会社マルト商事
概 要	管理栄養士を目指す学生の学びを活かしたプロジェクトとして、商品開発を実施した。テーマは「野菜摂取量の増加」であり、茨城県産野菜を使用した商品を検討した。
成 果	開発した商品は、サラダバック、餃子、どら焼きの3品。それぞれに茨城県産の野菜を使用しており、販売時のポップなどにも力を入れた。これら商品は、スーパーマルト36店で販売された。



常磐大学高等学校における主権者教育授業

活 動 時 期	2017～2023年度
活 動 場 所・地 域	常磐大学高等学校
学 内 参 加 主 体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、 砂金ゼミナール学生
協 力 団 体	・常磐大学高等学校 ・茨城県選挙管理委員会 ・水戸市選挙管理委員会 (順不同)
概 要	常磐大学高等学校の3年生を対象とした主権者教育授業を、県および水戸市選挙管理委員会と協働で毎年実施している。
成 果	2019年度までは直近の選挙の主な争点を大学生の視点で解説した。2020年度以降は本物そっくりの選挙公報と政見放送動画を用いた模擬投票を実施している。



常磐大学総合政策学部ビジネスアイデアコンテスト

活動時期	2016年度～
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 菅田浩一郎、文堂弘之、経営学科3年生
協力団体	・公益財団法人いばらき中小企業グローバル推進機構 ・茨城県よろず支援拠点 ・株式会社日本政策金融公庫水戸支店 ・株式会社茨城新聞社 ・年度別の協力企業 (順不同)
概要	各年度にて協力していただける地元企業の経営課題を解決するビジネスアイデアを学生が提案する。
成果	協力企業に対して、学生らしい斬新なビジネスアイデアを提供することができ、学生には地元企業との実践的な連携活動経験を提供することができた。



「鳥羽田ふれあいまつり」の企画・運営

活動時期	2015年度～
活動場所・地域	茨城県
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、砂金ゼミナール学生
協力団体	・茨城県町長公室地域政策課 ・茨城県鳥羽田区 (順不同)
概要	茨城県「ふるさと元気づくり事業」の一環として、教員および学生が鳥羽田区に対して三世代交流型のイベントを提案した。
成果	2015年度より「鳥羽田ふれあいまつり」が開催されている。砂金ゼミナールは祭りの運営のほか「昔遊びコーナー」を開設している。



那珂市静峰ふるさと公園八重桜まつり企画提案及び参加

活動時期	2018年度～
活動場所・地域	那珂市静峰ふるさと公園 ほか
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 教授 正木聡、正木ゼミナール3年生10名
協力団体	那珂市産業部商工観光課
概要	那珂市静峰ふるさと公園で2023年4月23日(日)に行われた八重桜まつりに、総合政策学科の正木ゼミナール3年生が参加して、ライトアップとブース出展を事前に企画内容を那珂市商工観光課にプレゼンテーションを行い実施した。
成果	「八重桜」をイメージして約300個のピンク色のセロファンを貼ったキャンドルを作成して、来場者の方々が足を止めて写真を撮ったり、自身で作成した灯籠と一緒に写真を撮ったり、楽しんでいるような様子であった。



日本語学校留学生のための日本語支援ボランティア活動

活動時期	2021年度～
活動場所・地域	日立市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生など
協力団体	日立さくら日本語学校
概要	2021年度以降、日立さくら日本語学校から依頼を受け、主に日本語教師を目指す学生が、留学生の日本語学習のサポートや、日立国際文化祭りに参加する留学生のサポートなどを行っている。
成果	毎年11月に行われる日立国際文化祭りに参加する留学生をサポートするため、3、4名の学生がボランティア活動を行っている。その他、日本語学習のサポートは不定期に依頼があり、その都度、学生が対応している。

ひたちなかプロジェクトマップ2023inひたちなか開運鉄道神社

活動時期	2023年度
活動場所・地域	ひたちなか市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 准教授 小佐原孝幸、学生サークル「M4」
協力団体	ひたちなかプロジェクトマップ実行委員会（ひたちなか海浜鉄道株式会社）
概要	ひたちなか海浜鉄道湊線の鉄道車両へ映像投影をメインに、バンド演奏、キッチンカーを複合した地域活性イベント。 実施日：2023年11月11日(土) 場所：ひたちなか海浜鉄道湊線阿字ヶ浦駅
成果	「茨城の魅力」をテーマに、県内外の4つの高校(那珂湊高等学校、笠間高等学校、常磐大学高等学校、神奈川工業高等学校)と常磐大学の学生が映像を制作、約300名の来場者が映像と音楽と食事を楽しんだ。



病院 — 大学連携事業「TOKI²プレナース1日体験」の企画・運営

活動時期	2018年度～ ※2020年度はCOVID-19の影響により中止
活動場所・地域	常磐大学桜の郷キャンパス 他
学内参加主体	看護学部看護学科広報委員
協力団体	独立行政法人国立病院機構水戸医療センター看護部
概要	看護職および本学看護学部への興味を深めるため、看護に関心がある高校生対象に、本学科授業体験、水戸医療センターの看護師との交流を通して、看護学生、看護職の具体的なイメージができるよう運営している。
成果	毎年、短期間で募集人数に達し、人気が高い。参加者からは、看護や看護職について具体的にイメージでき、より興味をもてたと好評である。その後、本学看護学部へ入学する参加者もいて、学生確保にもつながっている。



防災レクレーション「防災ジャンボかるた」の開発・実施

活動時期	2015年度～
活動場所・地域	城里町ほか
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 教授 砂金祐年、砂金ゼミナール学生12名
協力団体	・茨城県鹿行生涯学習センター ・古河市大和田地区 ・城里町立桂小学校 他(順不同)
概要	楽しみながら防災を学び地域の絆を深めるための防災レクレーション「防災ジャンボかるた」を作成した。
成果	2019年度は桂小学校の全校児童約100名に対し「防災ジャンボかるたを使った防災教室」を実施した。



水戸市学生食育サポーター

活動時期	2015年度～
学内参加主体	人間科学部健康栄養学科学生
協力団体	水戸市教育委員会学校給食共同調理場
概要	健康栄養学科の2～4年生(教職課程履修者含む)が、水戸市立小中学校からの依頼を受け、食育活動の支援員として児童・生徒および保護者に対して食育に係わる情報の提供や活動の補助等を行う。
成果	依頼に応じて、給食時の食育指導や調理実習の補助などを実施した。また、水戸市全体向けの活動として、給食の献立開発や、食育媒体作成、食育講演会での発表など様々な活動を行っている。

水戸市若者調査への参画

活動時期	2023年度～
活動場所・地域	水戸市とその周辺自治体
学内参加主体	人間科学部現代社会学科 准教授 二方龍紀、小森田龍生
協力団体	・水戸市市長公室政策企画課政策審議室 ・茨城大学 (順不同)
概要	水戸市が中心となって、周辺自治体と連携しながら取り組んでいる「いばらき県央地域連携中枢都市圏 若い世代のまちづくり調査・研究事業」に、主に大学生を対象とした調査・分析の担当者として参加している。
成果	2023年度は、水戸市担当者と協議し、水戸市や周辺自治体、茨城大学との会議に出席し、調査・研究の方向性について検討した。2024年度に実査・分析・報告を行う予定である。

水戸市総合教育研究所「つながる学び みと☆Future College」の一環としての学校支援活動

活動時期	2023年度
活動場所・地域	水戸市立柳河小学校
学内参加主体	人間科学部教育学科 准教授 石崎友規、教育学科4年生6名
協力団体	水戸市教育委員会
概要	水戸市教育委員会と常磐大学との連携事業「つながる学び みと☆Future College」の一環として、小学校でのSDGsをテーマとした探究的な学習のサポートを行った。
成果	小学生が大学生と意見交換をしたり、大学生が学習支援したりすることで、小学生の学習に対する意識や態度が向上した。また、学生自身も探究的な学習における子どもたちとの関わり方を理解することができた。

水戸市日本語プレ初級クラスサポーター活動

活動時期	2020年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部コミュニケーション学科 教授 飯野令子、コミュニケーション学科学生
協力団体	公益財団法人水戸市国際交流協会
概要	水戸市国際交流協会が地域在住外国人向けに開催する入門日本語教室で、飯野教授はコーディネーターを務めている。学生は教室の担当講師の指示のもと、教室活動のサポートをボランティアで行っている。
成果	主に日本語教師養成課程の科目を履修する学生が、プロの日本語教師が講師を務める日本語クラスに参加し、日本語学習を支援する体験をしている。2020年度以降、毎年2、3名の学生が継続的に参加している。



水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発プロジェクト

活動時期	2022年度～
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	総合政策学部経営学科 教授 村中均、「マーケティング演習」履修学生、村中ゼミナール学生
協力団体	・水戸市財務部税務事務所市民税課 ・東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 (順不同)
概要	2022年度に経営学科「マーケティング演習」で水戸市の新たなふるさと納税返礼品開発の提案を行い、2023年度は2022年度に提案のあった案を、実際のふるさと納税返礼品として開発した。
成果	学生が考案した「第20回水戸納豆早食い世界大会参加券(わら納豆12本セット付)」が、2024年1月5日に水戸市から、ふるさと納税返礼品(水戸黄門ふるさと寄附金の謝礼品)として登録・プレスリリースされた。また大会は2024年3月9日に開催され、ゼミナール学生が大会運営ボランティアとして参加した。

みなへそ文化祭

活 動 時 期	2023年度
活 動 場 所・地 域	ひたちなか市
学 内 参 加 主 体	人間科学部コミュニケーション学科 准教授 小佐原孝幸、学生サークル「M4」
協 力 団 体	・特定非営利活動法人MMMみなとメディアミュージアム ・茨城県立那珂湊高等学校生徒会 ・ひたちなか海浜鉄道株式会社 ・常陸那珂港振興協会 （順不同）
概 要	コミュニティスペース「みなへそ」を拠点とした地域活性イベント。 実施日：2023年9月24日(日) 場所：みなへそ(茨城県ひたちなか市釈迦町7-15)
成 果	高校や鉄道、常陸那珂港振興協会と連携して、飲食店、展示、港ツアーなどの企画を実施。参加者にとって普段知ることのできない地域の魅力に触れる貴重な機会となった。



「みんなで考えよう！少子化のこと…シンポジウム」の開催

活 動 時 期	2023年度
活 動 場 所・地 域	常磐大学見和キャンパス
学 内 参 加 主 体	総合政策学部法律行政学科 教授 吉田勉、吉田ゼミナール3年生・2年生22名
協 力 団 体	《後援》 ・茨城県子ども政策局少子化対策課 《パネリスト》 ・ひたちなか市長 ・県議会議員 ・モーハウス ・特定非営利活動法人グラウンドワーク笠間 （順不同）
概 要	1年間ゼミナール学生が研究した「少子化問題・対策」に関するプレゼンと「少子化対策」に取り組む首長、議員、関係団体等の方をパネリストに招いたディスカッションを行った。
成 果	ゼミナール学生による流山市政策の報告、学生や未婚者の方へのアンケートヒアリングの考察結果を発表するとともに、各分野の専門家による意見交換が積極に行われ、学生の提案などをたたき台にして新しい少子化対策のあり方が議論できた。 一般の県民約300人が来場し、学生報告や関連なパネルディスカッションへの高い評価をいただいた。

八千代町特産野菜・果物の知名度向上のための取組

活 動 時 期	2023年度～
学 内 参 加 主 体	人間科学部健康栄養学科 助教 高本亜希子、教授 住吉克彦、准教授 飯村裕子、健康栄養学科学生10名（現4年生）
協 力 団 体	・八千代町産業建設部産業振興課 ・株式会社はなまるBASE （順不同）
概 要	八千代町特産野菜・果物の知名度向上のための取組（レシピの考案等）。町所有のキッチンカーの活用。
成 果	学生は教員とともに特産品を取り入れたレシピ作成に取り組み、「トルティーヤ」と「キッシュ」の2品を提示した。2024年5月に大学に試作料理をご持参いただき試食会を行った。その様子が茨城新聞に掲載された。



地域包括ケア演習

活動時期	2021年度～
活動場所・地域	北茨城市
学内参加主体	看護学部看護学科 《2024年度》 ・専任講師 田村麻里子、石井歩、梅井尚美、横山和世、助教 油谷和恵、井坂恵、福岡知子、新妻靖子 ・看護学部4年生 88名
協力団体	・北茨城市市民福祉部高齢福祉課 ・北茨城市コミュニティケア総合センター「元気ステーション」 ・社会福祉法人北茨城市社会福祉協議会 ・北茨城市民病院 ・大津漁業協同組合 ・自主グループあしたば ・訪問看護ステーションcollabo ・医療法人秀仁会 元気の郷大津おはよう館 （順不同）
概要	北茨城市の各施設を訪問し、地域住民や看護職者へインタビューを実施する。その結果をまとめ、「地域包括ケアシステム」や「地域の看護職の役割」について学び、理解を深めている。
成果	科目のまとめとして、地域の関係者を招待し、学修成果発表会を実施している。地域包括ケア演習を通して地域住民と交流することは、本学部が目指す「地域でその人らしく健康に暮らすことを支える看護」ができる人材育成の一助となっている。



PTA本部による「障害への理解推進活動」への協力

活動時期	2023年度
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部現代社会学科 准教授 若林功 ⁽¹⁾ 、助教 平塚謙一
協力団体	茨城県立飯富特別支援学校PTA
概要	同校生徒と常磐大学生の交流の機会として「常磐大生とあそぼう」というイベントについての周知広報を行った。

水戸市安心・安全見守り隊

活動時期	2023年度
活動場所・地域	水戸市
学内参加主体	人間科学部現代社会学科 准教授 若林功 ⁽¹⁾ 、助教 平塚謙一 現代社会学科学生
協力団体	水戸市福祉部高齢福祉課
概要	見守り隊のPR動画と見守り隊参加者が装着するキーホルダーを作成し、水戸市役所にて市長への報告を行った。その様子は毎日新聞および茨城新聞に掲載された。また作成した動画は2024年に本学T棟ホールにて放映した。



第7回錦江町「未来」想像・創造コンテストへの参加・受賞

活動時期	2022～2023年度
活動場所・地域	鹿児島県錦江町地域活性化センター神川
学内参加主体	総合政策学部総合政策学科 教授 元木理香、 総合政策学科2022年度3年生10名、 総合政策学科2023年度3年生5名
協力団体	・錦江町未来づくり課(鹿児島県) ・特定非営利活動法人たがやす （順不同）
概要	元木ゼミナールによる地域調査合宿。人口減少地域の新たな拠点形成とそこに関わる人々の意識と行動を学ぶフィールドワークとしている。
成果	錦江町での合宿最終日に錦江町未来づくり課職員を前に、次週の成果報告と地域の課題について提示。 錦江町「未来」想像・創造コンテストへの応募。優秀賞(2022年度3名、2023年1名)。



地域への還元

本学では、教育研究成果の地域への還元として、さまざまな活動を行っています。

講演会・研修会等への教員の派遣

自治体・企業・団体等が開催する講演会・研修会等へ教員を派遣しています。

審議会等への教員の派遣

本学教員が、専門の知見を活かし学識経験者として自治体等の各種審議会等委員に就任しています。

審議会等への学生の派遣

本学学生が、大学での学びを活かした新しい視点を活用すべく、自治体等の各種審議委員会等に就任しています。

学生のボランティア活動（学生への案内）

学生の地域貢献活動を通じた自己成長の機会として位置づけ、公益性・公共性が高く、学生が行う活動として有益で教育的配慮のある活動の情報を学生に提供しています。

〈過去の案内例〉

- 市町村・社会福祉協議会等の実施する学習支援事業
- 各種社会福祉施設の実施するイベント（夏祭り、収穫祭 他）運営補助
- 地域自治体等で開催されるお祭り・スポーツイベント等における運営補助 など

公開講座「オープンカレッジ」の開講

地域連携研究支援センターの開講する公開講座の総称が「オープンカレッジ」です。本学の持つ教育資源を地域社会へと還元し、人々の多様な学習ニーズに応え、新たな学習意欲や自己実現を支援するとともに、開かれた学びの場として、学習機会を提供しています。

〈2023年度の開講講座〉

正しく知って正しく使おう健康食品、最新・ストレス軽減法を学ぼう！、
社会・集団・家族心理学（家族）、知覚・認知心理学（認知）、発達心理学、
今を生きるための憲法入門、日常に役立つAI（人工知能）入門、命について考える、
メディアが生成する地域創生と物語の再構築、
W.シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』を読む、シナリオを書こう、
美術館の怪人たち、障がい者就労支援の基礎、高校生×SDGs、
夏休みの自由研究のヒントになる体験実験講座①食べ物を使った自宅でもできる体験実験、
夏休みの自由研究のヒントになる体験実験講座②電気の性質をみてみよう、こどもナース入門 小学生編、
トキワであそぼ！トキワでまなぼ！①手作り玩具を作ってみよう、
トキワであそぼ！トキワでまなぼ！②色・いろ・イロ！

〈2024年度（春夏）の開講講座〉

からだを弛めてこころ活き活き、人生最期の過ごし方、安全安心な共生社会のための犯罪心理学さんぽ、
知覚・認知心理学（認知）、社会・集団・家族心理学（家族）、地域研究（アジア）Ⅰ、
人文地理学Ⅰ、歴史学、
おもしろ理科実験講座 食べ物と人のサイエンス、こどもナース入門 からだの音を聞いてみよう！、
トキワであそぼ！トキワでまなぼ！Part.1 色・いろ・イロ！色で遊ぼう！、
トキワであそぼ！トキワでまなぼ！Part.2 物語世界を創作して読んでみようー人間とAIの想像力ー、
トキワであそぼ！トキワでまなぼ！Part.3 手作り玩具を作ってみよう、
高校生×SDGs、高校生からの法学入門、メディア・リテラシー講座、健康食品って知っていますか？、
保育体験：子どもとあそび、看護の幅広さを知ってみよう、高校生として、「がん」を知ろう！



社会人向け教養講座の様子



小学生向け体験実験講座の様子

発 行 2024年9月

発 行 者 常磐大学地域連携研究支援センター
〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1
TEL.029-232-2652 FAX.029-231-2861
renkei@tokiwa.ac.jp
<https://www.tokiwa.ac.jp/>

